

(26) イカナゴ資源生態調査

調査方法

1. 仔魚分布調査

1) 調査実施日

第1回調査：2009年1月5、7日

第2回調査：2009年1月20、21日

第3回調査：2009年2月2、3日

2) 方法

ボンゴネットによる湾内12点での往復傾斜曳き採集

2. 漁獲物測定調査

1) 調査実施日

2009年2月28日～3月11日

2) 方法

中部地区の岸和田市漁協と南部地区の深日漁協において、漁期間中の漁獲物を原則として1週間に1回以上の頻度で採取し、100尾について全長を測定した。

調査結果

1. 仔魚分布調査

調査の結果をもとに、2009年2月9日に発表した「イカナゴしんこ漁況予報（平成21年）」を「資料1」として示す。

2. 漁獲物測定調査

測定結果を表1に示す。

担当者

日下部敬之、大美博昭、中嶋昌紀

表1 イカナゴ資源生態調査、漁獲物測定調査結果

	漁協名	平均全長(mm)	標本標準偏差
2009/2/28	深日	30.6	6.01
2009/2/28	岸和田市	32.8	6.41
2009/3/2	深日	29.8	6.87
2009/3/2	岸和田市	31.0	5.70
2009/3/3	深日	37.0	6.82
2009/3/4	深日	30.3	6.40
2009/3/5	岸和田市	32.5	7.88
2009/3/5	深日	32.1	21.03
2009/3/7	岸和田市	32.0	5.96
2009/3/9	深日	34.6	6.14
2009/3/9	岸和田市	34.4	5.89
2009/3/10	深日	41.2	6.04
2009/3/11	岸和田市	39.9	9.42

各サンプルとも100尾を測定。

イカナゴしんこ漁況予報(平成21年)

平成21年2月9日

大阪府環境農林水産総合研究所 水産技術センター

◎水温(図1)

水温の高低は、イカナゴ親魚の産卵時期(水温低下が産卵の引き金となる)や、ふ化した仔魚の成長(水温が高い方が成長が速い)、生き残り率(低水温の方が良い)などに影響を与える。今冬の水温は、1月上旬までは平年よりやや高めであったが、1月中旬以降、平年並み(昨年並み～やや高め)で推移している。気象予報の2月の気温予測も考え合わせると、水温は今後しばらく平年並みからやや高めで推移するものと考えられる。

◎季節風(図2)

季節風(特に西風成分)は、播磨灘から大阪湾に向かう海流を強め、イカナゴ仔魚の大阪湾への流入量を増大させる。また、仔魚の散らばりを促進することによって、生き残りにプラスに働く。今冬の西風は、仔魚のふ化時期にあたる12月下旬～1月中旬に比較的良好に吹き、平年を上回った。その後1月下旬～2月上旬は平年を下回っている。

◎産卵量および産卵期

兵庫県水産技術センターは、大阪湾で漁獲されるイカナゴの主な産卵場である、播磨灘鹿ノ瀬海域で産卵親魚の調査を行なっている。その結果によると、今期の鹿ノ瀬海域での総産卵量は、昨シーズン(例年に比べて少なかった)の0.65倍で、非常に少ない量であったと推定されている。一方、親魚の成熟状況と水温の推移から推定された産卵盛期は、12月25日～1月6日頃であり、昨シーズンとほぼ同時期であったと考えられている。

◎仔魚の出現状況(図3,4)

今期も、大阪湾内に設けた12の調査点において、プランクトンネットによるイカナゴ仔魚採集調査を3回実施した。

1月5、7日に行なった第1回調査では、明石海峡近くの点でふ化直後の仔魚が採集された。湾の東部や南部の海域にはまだ出現していなかった。

第2回調査は1月20、21日に行なった。仔魚の出現数は1点あたり平均31尾で、過去の同時期平均水準よりかなり少なく、同じく少なかった昨年同時期をやや下回った。分散状況は比較的良好で、明石海峡近くのほか、湾の南部海域での採集数が比較的多かった。平均全長は5.1mmで、昨年同時期とほぼ同じ大きさであった。

2月2、3日に実施した第3回調査で採集された仔魚は非常に少なく、主群がネットに入らない大きさに達していること、今シーズンの産卵期が短かったことがうか

がわれた。仔魚の平均全長は7.4mmであったが、海の中での主群の全長は10mmを超えているものと考えられた。なお、昨年同時期は1点あたり平均尾数が多かったが、これは仔魚がかたまって採集された点が1点あったため、他の点での採集数は両年でさほど違わなかった。

◎イカナゴしんこの漁況見通し

以上のように、今期はふ化時期の西風条件は比較的良好であったが、鹿ノ瀬における産卵量は少なく、調査で採集された仔魚の数も昨年同様に少ない。これらのことから総合的に判断して、今年のイカナゴ漁開始時におけるしんこの資源量は、少なかった昨年程度で、近年の平均的水準を下回るであろうと予測される。なお、2月下旬～3月上旬時点でのしんこの大きさは、昨年の主群と同程度かやや大きめであろう。

図1 大阪湾口部の水温変化

水試前、午前9時の底上1.75m

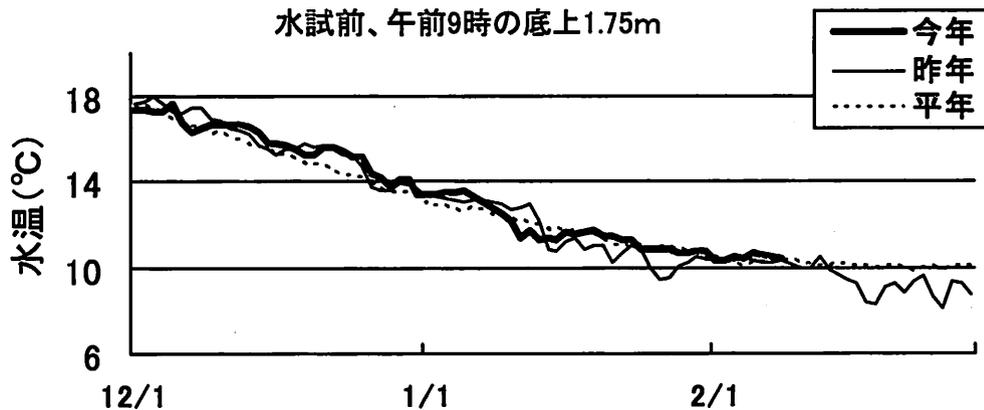
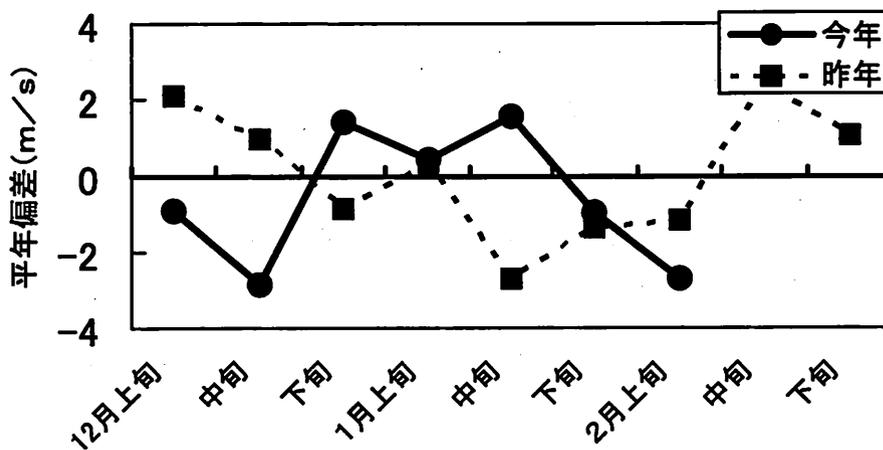


図2 西風成分の平年偏差

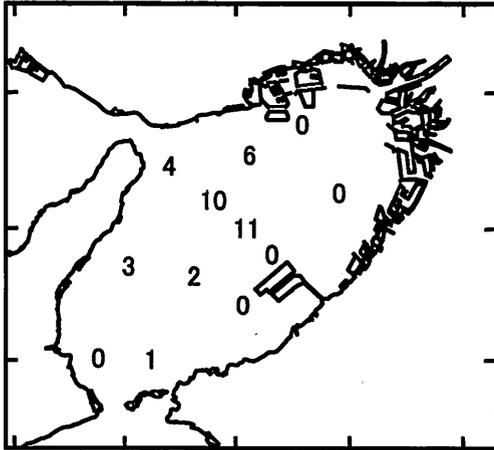
水産技術センター定置観測 旬平均値



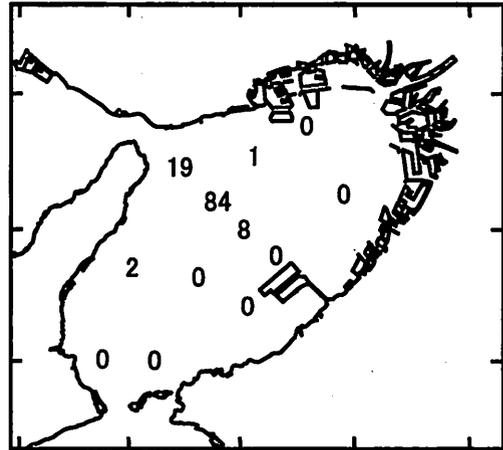
注) 2月上旬の風データは暫定値である。

図3 イカナゴ仔魚の採集数

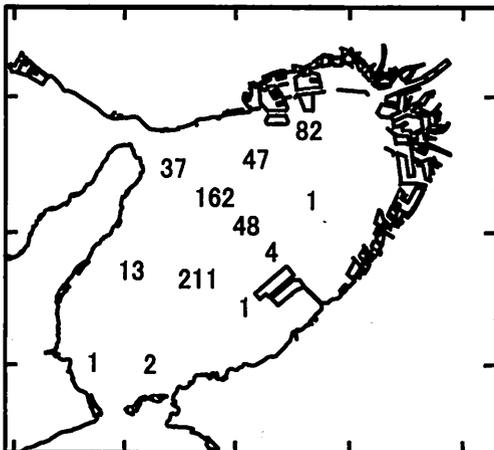
ポンゴネット斜め曳きによる、面積1平方mの水柱あたりの尾数。



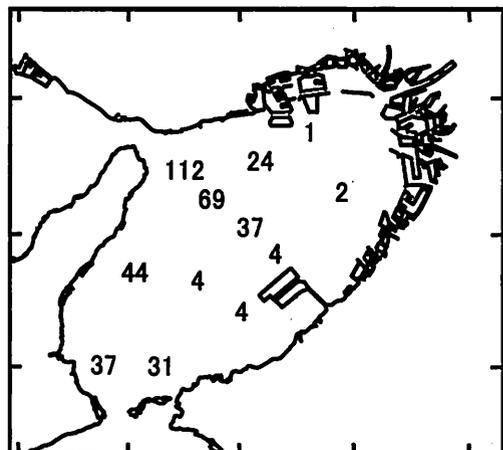
昨年1月7,8日 1点平均 3尾



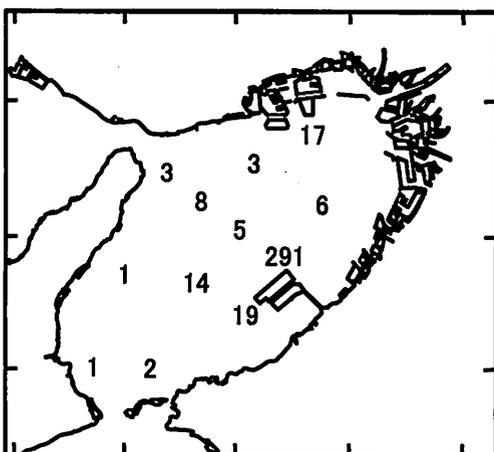
今年1月5,7日 1点平均 9尾



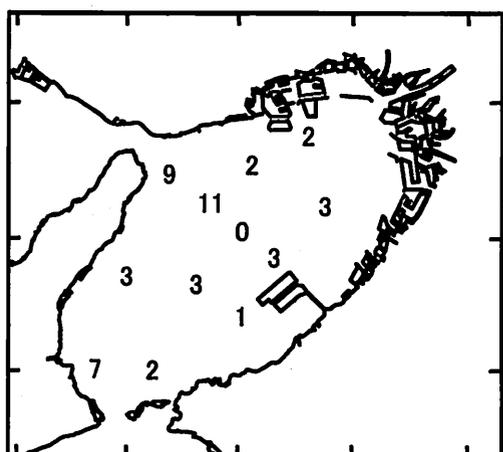
昨年1月21,22日 1点平均 51尾



今年1月20,21日 1点平均 31尾



昨年2月4,6日 1点平均 31尾



今年2月2,3日 1点平均 4尾

図4 昨年と今年のイカナゴ仔魚全長組成の比較

